

ヒトではなく、電子を走らせる。電子は疲れな ～「ヒト×ヒト」経営から「ヒト×デジタル」経営へ～

みなさま、最近流行りの「デジタル」「DX」(デジタルトランスフォーメーション)と聞いて、どう感じになりますか？
デジタルって何？ どうすればうまく活用できるの？ 従来のIT化と何が違うの？
このような素朴な疑問に対する、ひとつの解を差し上げられたら、と思っています。
(2020年12月7日(月) デジタル技術活用セミナーより)

SAPジャパン株式会社
インダストリーバリュー
エンジニアリング統括本部
IoT/IR4ディレクター
村田 聡一郎さん



わが社の強み(のひとつ)は「ヒトの力」「社員の現場力」だと思いませんか？

日本企業の強みは、「ヒトの力」「現場力」だと誰もが言います。実際、製造業とサービス業、大企業と中小企業、ブルーカラーとホワイトカラーを問わず、高度成長期から90年代半ばまで、これこそが、日本を強くした原動力、世界最強の勝利の方程式でした。ところが、少し風向きが変わったのが、2000年頃。それまでも少しずつ上がってきたIT、デジタルの能力がしきい値を越え、ヒトの仕事の一部をデジタル(ソフトウェア)に渡すことができ始めました。そうすると、社員の現場力に頼れない欧米企業の経

営者にとっては、デジタルの特徴(疲れしない、間違えない、サボらない、ストライキをしない、賃上げを要求しない、辞めない…)が非常に魅力的に見えたはずですが、したがって海外諸国は、デジタルを便利な第二の労働力として投入し、デジタルが得意なところを少しずつ渡して、ヒトとの分業を進めてきました。一方、日本の場合は「ヒトの力」があまりに優秀だったがゆえに、デジタルへ分業がほとんど進まずに今日まで来てしまいました。現場力重視、現場力一本やりが、今ではアダになっているのではないのでしょうか。まずはそれを認識し、今までのやり方ではいけないと気づく必要があります。そして人手不足の今、それは現場の社員さんを楽しめるということにも繋がります。

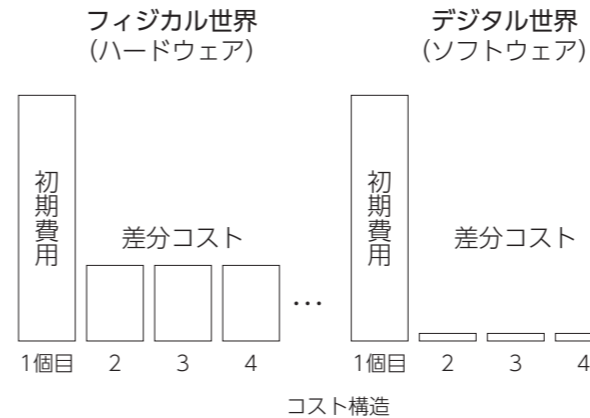
単位：USドル(加重移動平均した為替レートにより換算)

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2017年
1 日本	88,093	85,182	アイルランド	154,011	アイルランド	230,321
2 ベルギー	73,386	84,696	アメリカ	103,967	スイス	164,272
3 ルクセンブルク	71,393	78,583	スウェーデン	103,812	スウェーデン	130,804
4 スウェーデン	69,771	75,803	フィンランド	103,497	アメリカ	128,394
5 オランダ	69,568	74,454	ベルギー	99,761	デンマーク	125,744
6 フィンランド	67,561	68,427	ノルウェー	99,633	ノルウェー	124,556
7 フランス	64,289	64,955	オランダ	98,138	ベルギー	121,351
8 ドイツ	62,162	63,648	日本	94,186	フィンランド	119,763
9 オーストリア	59,914	62,542	デンマーク	88,739	オランダ	115,400
10 デンマーク	59,104	61,961	オーストリア	86,597	オーストリア	110,380
11 ノルウェー	56,832	59,052	ルクセンブルク	85,327	日本	105,569
12 アイルランド	54,935	59,004	フランス	84,090	フランス	103,143
13 イギリス	51,229	58,714	イギリス	83,706	ドイツ	98,699
14 イタリア	48,094	55,737	ドイツ	78,871	カナダ	92,597
15 オーストラリア	43,468	54,873	オーストラリア	66,588	アイルランド	91,889
16 スペイン	40,717	47,208	イタリア	62,429	イギリス	90,830

OECD加盟国における製造業の労働生産性水準上位16カ国の変遷
出典：(公財)日本生産性本部 労働生産性の国際比較2019データ

「デジタル」ってそもそも、何？

デジタルって何なのか？ 何がいいのか？ 日本企業の場合、これを理解しないまま、これまでのやり方のままで、漠然と進めているケースが多いのです。デジタルの対語は何ですか？ と聞かれたらなんとお答えになるのでしょうか。アナログという言葉が一般的ですが、ここでは、デジタルの対語は「フィジカル」です。世の中に存在するほとんどのものはフィジカルです。デジタルをフィジカルと対比すると3つの特徴があります。1つ目は、フィジカル世界では考えられない超高速。2つ目は、容易かつ完全に複製できる。3つ目は、指示されたことは100%正確かつ無限にこなすことができる。そしてこの3つの特徴が、最も大きく影響するのはコスト構造です。フィジカル世界では、物を製造するとき、初期費用つまり最初の1個目が出荷するまでには大きなお金がかかりますが、2個目以降も必ず差分コスト(製造原価)が発生します。ところがデジタル世界では、1個目を作るための初期費用はフィジカル世界と同じかかります。ところが2個目以降のコストは、つくるといっても複製ですし、動かすコストも電気代くらい。よって2個目以降のコストは限りなく低く、ほぼゼロといってもいい。製造原価がゼロって、たいへんなことですね。これは良い悪いの話ではありません。単に、デジタルとフィジカルとは違うので、違うやり方をする、いいところ取りをする必要がある、ということです。デジタルが得意な領域で、あえてヒトが戦っても勝ち目はないので、自分のために働かせる方法、デジタルがヒトを助ける方法を見つけ出さないとはいけません。



- 差分コストゼロ
- 容量ほぼ無限
- 時差ゼロ
- 距離ゼロ
- 双方向
- 明細・分析・予測
- パーソナライズ
- 複製できる

デジタルの8つのスーパーパワー

従来の「IT化」と「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」は何が違うのか？

ヒトが行うことを前提とした従来の仕事の仕方を、デジタルにやらせる前提で考えた新しい仕事の仕方に入れ替えてしまうことを「DX」(デジタル・トランスフォーメーション)と呼びます。それに対して、従来の「IT化」は、ヒトが行う前提は変わらず、ところどころにITを投入して、部分的にカイゼンします。これが「DX」と従来の「IT化」の最大の違いです。例えば、孫の写真を撮って田舎に住むおばあちゃんに見せる、とします(図表参照)。おばあちゃんの立場からしてみると上と下はほぼ一緒ですが、これを提供側(業務プロセス)からみると大違いですね。DXとIT化は何が違うのか？ ヒトが走る前提の業務プロセスを変えずに部分的にカイゼンするのではなく、デジタル前提の新しい業務プロセスに入れ替えるということがポイントだと思います。



例：写真を撮って遠方の人に送る

いかがでしょうか？ 少し見えてきましたでしょうか？ 最後に本日のまとめです。社員さんの頑張りをさらに楽にするために、代わりにデジタルを走らせましょう。デジタルは、初期投資が終わったら、24時間365日働いてくれます。それを活かすためには部分的にツギハギするのではなく、入れ替えをするところまで考えなくてはいいけませんということをお伝えしたいと思います。

2/19 新型コロナ時代に立ち向かうものづくり現場最前線 ～製造現場が変わる、ビジネスが変わる。～ (ものづくりシンポジウム2021)

新型コロナ時代に立ち向かうビジネス展開や組織体制強化の参考とするために、特徴のある事業展開や組織改革、人の手に依存しない生産体制構築などを取り組む企業事例を紹介し、わかりやすく解説いたします。この機会にぜひご参加ください。

日時 2021年2月19日(金) 14:00~16:30

形式 ハイブリッドセミナー(会場型&オンライン型)
(会場型) 姫路商工会議所 本館2階 大ホール(姫路市下寺町43) / 定員70名
(オンライン型) Zoom / 定員70名

内容 (講演1)「人が主役のスマートファクトリー」
ジェイテクト株式会社 工作機械・メカトロ事業本部 ラインコントロール技術部部长 山口 泰一氏

(講演2)「楽しくなければ、仕事じゃない! 常識を覆す高利益率のデジタルものづくりとは」
HILLTOP株式会社 代表取締役副社長 山本 昌作氏

問合せ先 産業政策担当 TEL 079-223-6555 E-mail kougyou@himeji-cci.or.jp
https://www.himeji-cci.or.jp/seminars_events/21021901.html

※詳細は同封のチラシ、当所ホームページをご覧ください。



ネットで簡単! 補助金申請 補助金申請システム(Jグランツ2.0)のご案内

ホームページ情報をもとに商工会議所事務局作成

1 補助金申請システム(Jグランツ)について

従来の多くの補助金申請は、紙での申請が主流であり、大量の紙での申請や郵送等の手続きが煩雑であり、補助金を利用したい事業者が気軽に申請できる環境ではありませんでした。世界的にも、補助金申請を含め行政のデジタル化が進んでいることや、コロナ禍における「新しい生活様式」への対応も急務となっている現状を踏まえ、経済産業省では、公募から事業完了後の手続きまでをオンラインで完結可能な汎用的な補助金申請システム(Jグランツ)の機能を改善した「Jグランツ2.0」をリリースしました。機能改善により様々な補助金制度で活用可能となり、事業者の利便性向上に寄与することが期待できます。

2 Jグランツによる申請等のメリット

- ・Jグランツに国及び自治体の補助事業が掲載され、ワンストップで、補助金情報を収集することができます。
- ・24時間365日、自宅や職場など、いつでも・どこでも申請が可能です。
- ・移動時間や交通費、郵送費などのコスト削減が期待できます。
- ・Jグランツ上でリアルタイムに申請状況や処理状況を把握できるため、手続きを迅速に行うことができます。

3 対象の補助事業について

2021年度当初予算において、経済産業省の補助金では100を超える補助金で活用すべく導入準備を進めています。各補助金の公募準備ができ次第、Jグランツ上の「補助金一覧」に補助金名が掲載されます。

4 GビズID(法人共通認証基盤)の早期取得について

Jグランツを利用する際には、事業者が1つのアカウントで複数の行政サービスにアクセスできる認証システムである「GビズID」を取得する必要があります。GビズIDの取得には、1~2週間程度の審査期間が必要となりますので、公募開始前からの早めのGビズIDの取得をお願いします。

問合せ先

GビズIDヘルプデスク
(受付時間 9:00~17:00 土日祝日、年末年始を除く)
TEL 06-6225-7877 https://gbiz-id.go.jp/top/
Jグランツ2.0
https://www.jgrants-portal.go.jp/



GビズID



Jグランツ2.0